

# 風水害から身を守る3つのポイント



過去10年間(2010年から2019年まで)の平均で年間25個の台風が発生しています。台風が接近・上陸したときだけでなく、前線が停滞することで大雨が降り、道路の冠水や河川が氾濫することもあります。事前に備えることで被害を最小限にしましょう。

## 1 台風や大雨の前に 周囲の危険性を知る

これまで経験したことのないような豪雨による災害が増えています。まずは、土砂災害が起こりやすい、浸水しやすいのはどんな場所か、自宅や職場、学校の周辺などの危険性を認識し、心構えをしましょう。

### ●危険性を知るには

各自治体で作成しているハザードマップを確認しましょう。ウェブサイトで閲覧できる他、各市役所・町役場で配布しています。



## 2 雨が降り始めたら 避難に関する情報を入手する



大雨の際、各自治体から、災害の発生危険度に応じた3種類の情報を発信します。家族構成や避難先など各自の状況に応じて、避難のタイミングをあらかじめ決めておくことが大事です。

### ●避難情報を知るには

データ放送を受信できるテレビの場合、リモコンのdボタンを押せば、いつでも地域の気象情報や防災情報を見ることができます。

その他、ラジオやスマートフォンなどを活用して、自ら積極的に情報を入手しましょう。



**早期注意情報**  
(気象庁が発表)



**洪水注意報  
大雨注意報等**  
(気象庁が発表)



**避難準備・  
高齢者等  
避難開始**  
(市町村が発令)



**避難勧告  
避難指示(緊急)**  
(市町村が発令)



**災害発生情報**  
(市町村が発令)

警戒レベル1 災害への心構えを高める。

警戒レベル2 避難に備え、ハザードマップなどにより自らの避難行動を確認。

警戒レベル3 避難に時間を要する人(高齢者、障がいのある方)は避難開始。

警戒レベル4 全員避難

警戒レベル5 命を守る行動を取る

- ・避難先への移動中に危険を感じた場合、近隣のより安全な建物へ移動。
- ・外に出ることが危険と感じた場合は、建物内 のより安全な場所に移動。(垂直避難)

## 3 危険が迫る前に 早めの避難行動を

### ●「今まで大丈夫だったから今回も大丈夫」は絶対ダメ!

人は、自分が危機的状況にあっても避難行動を取れない場合があります。その要因の一つは、危険や脅威を軽視したり、事態を楽観的に見てしまい、自分だけは大丈夫と錯覚する心理状態になるからです。このような心理状態に誰もがなる可能性があることを理解し、適切な避難行動が取れるようにしましょう。

### ●間に合わないときは「垂直避難」

土砂災害の多くは木造の1階部分で被災しています。緊急の場合は、近くの頑丈な建物や自宅の2階以上に避難する「垂直避難」も有効です。外に出ることで、かえって危険が及ぶような場合は、家の中の少しでも安全な場所に避難してください。

ただし、木造住宅は土砂災害によって全壊する恐れがありますので、早めの避難を心がけましょう。

※昨年は東日本台風(台風第19号)により危険物や毒劇物の流出事故が多発しました。これらを取扱う各事業所においては、風水害への事前対策を行いましょう。